

# キャベツ菌核病に対する数種薬剤の残効性

～ 春キャベツの菌核病に対する防除体系の構築に向けて ～

## 1. はじめに

キャベツ菌核病は、主に結球部が灰白色に腐敗する病害で、最終的には被害株の表面に黒色の菌核を多数形成することが特徴である(図1)。本県では冬キャベツ、春キャベツともに発生がみられるが、特に春キャベツで問題となっている。

これまでに、春キャベツの菌核病に対して防除が必要な期間は、定植直後(11月中旬)から年末までの約1か月半と3月上旬からの約1か月であることを明らかにした(和歌山県農業試験場ニュース第129号)。比較的防除期間が長いいため、この期間に薬剤の効果が途切れることがないように防除するには、薬剤の残効期間を把握する必要がある。そこで、本病に対する数種薬剤の残効性を接種試験により検討した。

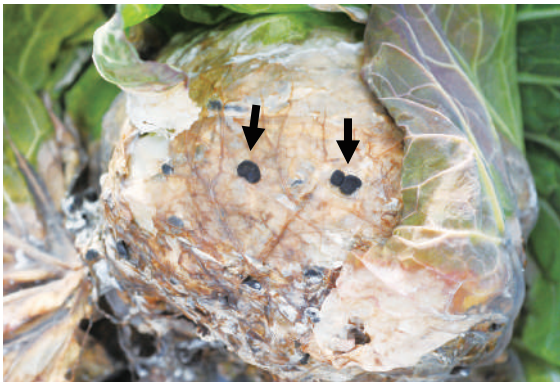


図1 キャベツ菌核病の発病の様子  
注) 矢印は菌核を示す。

## 2. 材料および方法

2017年11月28日に、農業試験場内の露地ほ場にキャベツ(品種‘めぐみ’)を定植した。供試薬剤および散布時期は表1のとおりとした。2018年4月17日時点で自然発病が認められなかったため、同日、 $1.0 \times 10^3$ 個/mlに調整した菌核病菌子のう胞子懸濁液を、背負式電動噴霧機で1区あたり150ml散布し、接種した。5月28日に発病調査を行った。

## 3. 結果

シグナムWDGおよびカンタスドライフロアブルは最終散布35日後の接種であっても防除効果が認められた(表1)。ファンタジスタ顆粒水和剤およびロブラール水和剤は最終散布14日後の接種で防除効果が認められたが、ファンタジスタ顆粒水和剤は35日後の接種で、ロブラール水和剤は19日後、35日後の接種で効果が認められなかった。

## 4. おわりに

今回の結果から、供試薬剤の残効期間は、シグナムWDGおよびカンタスドライフロアブルで1か月以上、ファンタジスタ顆粒水和剤で2週間以上1か月未満、ロブラール水和剤で2週間程度と考えられた。今後は、今回得られた結果を基に2回散布または3回散布の防除体系を組み、キャベツ菌核病に対する防除効果を実証していきたい。

(環境部 菱池政志)

表1 薬剤のキャベツ菌核病に対する防除効果

供試薬剤	希釈 倍数	最終散布から 接種までの日数	散布日					調査 株数	程度別発病株数				発病株率 (%)	発病度	防除価
			12/3	12/18	12/25	3/13	3/29		4/3	0	1	2			
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000	14	○		○	○		88	85	0	0	3	3.4	3.4	78.3
		35	○		○			90	77	4	4	5	14.4	10.0	36.4
シグナムWDG	1,500	14	○		○	○		89	87	0	0	2	2.2	2.2	85.7
		35	○		○			90	86	2	1	1	4.4	2.6	83.5
カンタスドライフロアブル	1,500	14	○		○	○		88	83	3	1	1	5.7	3.0	80.7
		35	○		○			88	82	4	0	2	6.8	3.8	75.9
ロブラール水和剤	1,000	14	○		○	○		89	83	4	1	1	6.7	3.4	78.6
		19	○	○		○	○	87	70	7	7	3	19.5	11.5	26.9
		35	○		○			90	59	13	4	14	34.4	23.3	0
無処理							89	67	9	6	7	24.7	15.7		

程度別指数 0: 発病を認めない 1: 外葉の1~2枚に発病が認められる  
2: 外葉の3枚以上に発病が認められる 3: 外葉に発病が認められ、さらに結球部にも発病が認められる  
発病度 = {Σ(発病指数別株数×発病指数) × 100} / (総調査株数×3)  
防除価 = (無処理区の発病株率 - 処理区の発病株率) × 100 / 無処理区の発病株率